

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年4月14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891200040		
法人名	有限会社 修明		
事業所名	グループホーム 和み水府	ユニット名	西ユニット
所在地	〒313-0221 茨城県常陸太田市国安町1627-1		
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果 市町村受理日	昭和26年4月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=tr ue&JigyosyoCd=0891200040-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年10月31日	評価機関 決 済 日	平成26年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当施設は東西を山々に囲まれ、秋には錦織なす紅葉が見事。そして、そばの花が満開時には心清まるような白い花で畑一面が白で覆われるその様なのどかな田園地帯の中にあります。</p> <p>朝4時、一番高齢な（101歳）方の施設内歩行から我が家の一日が始まります。それぞれ個性豊かな方々が多く、ご自分の部屋で読書をする人、手芸や押し花をする人、草取りに夢中になる人等ひとりひとりに合った楽しみ方をしております。でも、皆と一緒に何かをする時にはすぐに一致団結する頼もしい皆様方です。</p> <p>節分祭や七夕まつり等の季節行事も行いますが、今年で9回目になる“和みまつり”は一年で一番大きなイベントです。恒例の『楽団ジョイフル和み』の演奏では2施設合同で行いました。入居者の皆様それぞれの持分パートの演奏を奏で、頑張りました。職員との呼吸もぴったり合い、最高の出来ばえでした。参加して下さいました地域の皆様方から大きな拍手をいただきました。</p> <p>地域の方々との“心と心の架け橋”の輪も少しづつ大きくなって参りました。毎月リハビリ体操や清掃に来て下さるJAの方や小学校のお花見会や運動会、近くの保育園の夏まつり、そして地区の盆踊り会などに誘って下さいました。</p> <p>入居者の皆様は、認知症がありながらも色々な病を持っている方がほとんどです。最近では生活にも慣れ、入居者同士お互いに相手を思いやる心や気遣う心がみられる様になりました。そのような中で、私たちも全身で送って下さる心のメッセージを理解し、心の奥に気づきながら、皆様の望む暮らしを実現させていきたいと思っています。</p> <p>来年は“四国八十八箇所の霊場”が開かれて1200年になるそうです。この10月には“八十八箇所参りと同じ功德を！”ということで、『お砂踏み』巡礼を申込みました。職員共々その日を心待ちにしている今日この頃です。</p> <p>どこにも無い“和み水府”ならではの笑顔いっぱい、優しい、穏やかな、田舎の片隅の楽しい明るいグループホームです。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>見晴らしの良いなだらかな丘の斜面にある事業所なので、窓外に広がる四季折々の景色が利用者に安らぎを与えているほか、利用者は車が殆ど通らない事業所周辺の小道を安全に散歩している。</p> <p>事業所は町内会に加入しており、職員が地域の集会や顔見知りの方の冠婚葬祭に参加するとともに、利用者は職員と一緒に毎年地区の盆踊りに行ったり、地域の小学校の運動会や花見会、保育園の夏祭りに招待されて参加したりして地域の一員として日常的に交流している。</p> <p>近隣のボランティアが、毎月利用者のリハビリ体操のために来訪するとともに、利用者の散歩や外出に同行したり、年2回事業所の清掃をしてくれている。</p> <p>代表者が頻繁に事業所に来て、職員の業務や悩みを把握するよう努めるとともに、職員の家庭環境に即した勤務体制や休暇取得、職務変更などの希望に柔軟に対応ができるよう取り組んでいる。</p> <p>施設長は職員が向上心をもって仕事に取り組めるよう資格取得に向けた支援を行っている。</p> <p>職員は利用者が自発的に着替えを用意して入浴したり、おしゃれな利用者が洋服掛けに下げた衣類の中から毎日の着替えを選ぶことを楽しめるよう支援しているほか、読書好きな利用者の方は日記を書いたりして、その人らしく過ごせるよう支援している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念 1. 最良な環境で、最適な介護 2. 満足されるサービスの提供 3. 生き甲斐を謳歌する人生 スローガン 「満足されるサービスの提供で、地域の方々と共に歩む介護施設」 施設の理念を、朝の朝礼において唱和している。また、職員の採用時には必ず理念を伝え理解をしてもらっている。	「最良な環境で最適な介護」や「満足されるサービスの提供」、「生きがい謳歌する人生」を基本理念としているほか、地域密着型サービスの意義を踏まえた支援ができるよう、「満足されるサービスの提供で、地域の方々と共に歩む介護施設」をスローガンに掲げている。 理念を事務所に掲示するとともに、管理者と職員は朝礼時に唱和して共有を図り、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、葬儀に参列したり、町内の廃品回収に協力したりしている。日常的に散歩に出掛け、近所の方々と挨拶を交わしたり、野菜を頂いたりしている。にこにこ会のボランティアの方が交代で月1回来て下さり皆様と共に楽しんでいる。小学校のお花見会や運動会や地域の盆踊り会や保育園の夏祭りに参加したり、また児童の町探検授業で施設見学等に協力している。	散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、近隣住民から野菜のお裾分けを頂いている。 町内会に加入し、職員が地域の集会や顔見知りの人の冠婚葬祭に出席するなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 利用者は毎年職員と一緒に地域の盆踊りに行ったり、地域の小学校の運動会や花見会、保育園の夏祭りに招待されて参加したりしている。 毎月地域のボランティアが利用者のリハビリ体操のために来訪するとともに、利用者の散歩や外出に同行してくれているほか、年2回事業所の清掃をしてくれている。 施設長は認知症高齢者の介護をしている地域住民の相談に乗っている。 地域の小学生の授業の一環である町探検授業を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長が認知症ケア専門士の資格有るので、地域の方から認知症介護での困り事の相談を受けています。また、山田小学校との交流を持ち小学生の社会観育成に協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所からの報告に対して色々な意見が出される。また介護保険のことや地域の現状についても意見交換をしている。外部評価の結果を踏まえて現在取り組んでいる内容について報告し、意見をもらっている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、老人会会長を委員として2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の状況や行事、外部評価で明らかになった課題について報告するとともに、意見交換や話し合いを行っている。 市職員や地域包括支援センター職員からは地域の福祉についての情報を得るとともに、地域の委員からは地域の祭りや防災活動などの情報を得ている。 委員から「保育園の夏祭りに参加してはどうか」との提案を受けて参加するなど、話し合いの結果をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは相談しやすく、運営推進会議はもとより、事業を行っていく上で生じる運営やサービスの課題について、色々と助言を頂いている。また、種々の情報も提供していただいている。	市職員が毎回運営推進会議に出席している。管理者は3ヶ月に1回開催される市のグループホーム連絡協議会や介護支援専門員連絡協議会に参加した際に、市担当者と意見や情報を交換している。代表者は市担当者に、事業所の運営やサービスの課題について相談をして助言を得るなど、協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については厚生労働省「身体拘束ゼロ作戦」の11項目を研修により全職員が学んでいる。また日頃より「言葉による拘束」など自覚しない拘束が行われていないかその日のケアを振り返り点検をしている。また、利用者の人権を守ることがケアの基本であり、どんなことがあっても拘束は行わない方針である。やむを得ない場合は身体拘束委員会を通して決定することになっている。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成し、年1回内部研修を実施して全職員が身体拘束の弊害を正しく理解できるよう取り組んでおり、職員は玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。身体拘束は行わない方針であるが、やむを得ず身体拘束をする場合に備え、身体拘束排除のための委員会を設けるとともに、家族等への説明書や同意書、経過観察記録、検討記録などの書式を準備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外の虐待防止の研修に参加している。勉強会やミーティングを実施し、高齢者虐待防止法に関して全職員が理解をする取り組みを行っている。	/	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて職員の理解を深めるようにしている。対応が必要と思われる利用者がいた場合には、権利擁護の制度を活用できる様に支援している。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を十分にとり、説明をして同意を得ている。事業所のケアについての考え方や取り組み、利用料金や重度化・看取りについての対応や医療連携体制、事故時の対応、退去を含めた事業所で対応可能な範囲について詳しく説明をしている。質問があれば丁寧に説明をして納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や表情・態度からその思いを察するようにしている。意見や不安などは朝のミーティング時に報告し、早期に解決している。ご家族には手紙や訪問時に問いかけ、何でも言ってもらえる雰囲気作りをしている。ご意見箱を設置したり、家族会でアンケートを実施したりし、意見や苦情を受け止めている。	意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 利用者からは日々のふれ合いの中で、家族等からは毎月の利用料請求時や来訪時に話を聞いているほか、年1回開催する家族会で1年間の行事の様子を撮影した映写会を行った後にアンケートを実施し、意見や要望を汲みあげるよう努めている。 家族等から「利用者の事業所での様子を知りたい」との希望を受けて毎月事業所便りを発行するなど、出た意見を運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回は全職員出席のミーティングを実施し、職員の意見や要望を出している。代表者や管理者は職員の意見や要望を出来るだけ反映できるように心掛けている。入居者へのかかわり方に問題点があった場合は、早期に対応できるように検討会を実施している。	管理者は毎月全職員が出席するミーティングを開催し、職員が意見や要望、提案を出せる機会を設けている。 代表者は頻繁に事業所に来て職員の業務や悩みを把握するよう努めるとともに、職員の家庭環境に即した勤務体制や休暇取得、職務変更などの希望に柔軟に対応ができるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に現場に来て、利用者や接したり、職員の業務や悩みを把握する様にしている。職員の資格取得に向けた支援を行っている。また、職員が向上心を持てるよう職場環境を整えるため職員の各家庭の状況に合わせた勤務体制を取りながら、休暇希望や勤務変更にも柔軟に対応をし継続勤務を支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	全ての職員が質を向上させていける様事業所以外での研修に参加し、学びの機会を設けている。学んだことを全職員が共有できるように研修報告会を実施している。施設内においても3ヶ月に1回は研修会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホーム連絡会や県の介護福祉士会、生活リハビリ懇話会に参加し、意見交換や研修会を実施している。全国グループホーム協会、県地域密着型介護サービス協会、認知症ケア学会、宅老所・グループホーム全国ネットワークの会員となり、情報交換やサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず利用前に本人と会って、本人の置かれている状況を理解し、心身の状況や本人の思いなどを知り、職員が本人に受け入れられ、利用者が安心して生活できるような馴染みの関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所するまでの経緯をゆっくり聞くようにしている。初期面談の中で、困っていることや不安なことなど何でも話せるような雰囲気作りをしている。ご家族の求めているものは何かを理解し、事業所として何が出来るか考え、安心して生活を任せられる施設であると思っただけの様な信頼関係を築ける様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には、本人や家族の思いや状況を確認し、グループホームとは限らず必要なサービスにつなげるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有している。日常生活のことばかりではなく、利用者の得意分野で力を発揮してもらい、色々と利用者に教えてもらうこともある。喜怒哀楽を共にし、お互いに助け合って安心と心の安定を生み出し、一緒に和やかに穏やかに生活が出来るようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族との絆の大切さを理解している。常に家族の方には日々の暮らしの出来事や気づきの情報を伝えながら、家族の思いに寄り添って本人を支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の近所の友達が訪ねてきたり、月に1回は家族と一日出掛けてきたり、お盆でご家族が集まるため外泊をする利用者もいます。本人や家族の思いを知り、馴染みの美容院へ出掛けたり、家族や知人への電話や手紙は希望に沿って支援している。	利用者の親戚や近所に住んでいる友人が来訪している。 利用者は家族等の協力を得ながら彼岸や盆、正月に自宅へ一時帰宅をしたり、墓参りに出かけたりしているほか、馴染みの飲食店や美容院へ出かけている。 職員は利用者が家族等へ電話をかけたり手紙を出したりできるよう支援し、馴染みの人との関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	車椅子を押してあげたり、手を引いてあげたり、利用者同士お互いに支え合う、協力しあう雰囲気がある。日中はほとんどの利用者はフロアに集まり、お茶や会話を楽しんでいる。職員も一緒に多くの会話をもつ様になっている。生活に馴染めない人には、利用者職員が協力して馴染める様な雰囲気づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方にも、行事に招待したり、遊びに来てもらうなど継続的な付き合いが出来るようにしており、時々電話で近況を聞いたりしている。退所後の相談を受けることもある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がどの様に暮らしたいのか、何をしたいのか、誰に会いたいのか、日々の関わり合いの中で声を掛けたり、言葉・表情・行動の中から汲み取り把握する様にしている。七夕まつりでは職員の支援のもと一人ずつ願い事を短冊に書き、発表をし、その願いが叶うように家族の方に協力をいただいている。	職員は日常のふれあいの中で、利用者にさりげなく話しかけて希望や悩みなどを聴くほか、利用者が七夕祭りに短冊に書いた願い事を家族等に伝えて叶うようにするなど、利用者の思いにそった支援に努めている。 思いを表わせない利用者場合は家族等から話を聴いたり、話し方や表情、しぐさなどから思いを汲み取るように努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に家族から入居までの生活を必ず聴きとって、職員全員で共有している。できるだけ現在使用している馴染みの物を持って来て下さるように話している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解しながら、本人が出来ること、わかることを中心にその人の生活の全体を把握するようにしている。そして本人が自分の有する能力を発揮しながら、自分らしく暮らしていくことを支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族には、日ごろの関わりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換をし、毎月モニタリングを実施している。また本人や家族の要望や変化に応じて見直している。	介護計画は利用者や家族等から契約時や入居後に聞き取った相談記録のほか、利用者との日頃の係わりの中で把握した思いや意向、課題について全職員でミーティングを行って作成している。 作成した介護計画は、職員が毎日記録している実施表を基に毎月モニタリングを行って検討するとともに、3ヶ月から6ヶ月毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、バイタル、食事量・水分量・排泄など日々の健康管理の記録をしたり、少しの気付きも見逃さず記載している。朝の申し送りには必ず1人1人の情報を伝えている。日々の記録を根拠にしながら、介護計画の実施評価をし、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や自宅への送迎、必要品の購入など必要な支援に対応し、個々の満足度を高めるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様が安心して地域で暮らし続けられるように、地域包括支援センター、民生委員、地区長、老人会長、ボランティアの方、消防（救急法）、小学校の児童の方との触れ合い、理美容サービスなど地域の方々の力を借りて意見交換をする機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医が月2回訪問診療と週1回看護師に健康チェックに来てもらっている。また利用前からのかかりつけ医での医療も受けられるように、ご家族と協力して通院介助を行ったりしている。受診結果について指示や助言がある時は、全職員が共有し、支援している。認知症疾患センターのある医療機関が協力病院のため相談に行き易く、診察情報や治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医を担当医としている。 協力医療機関への受診は職員が付き添い、それ以外は原則として家族等が付き添っている。 受診結果は受診ノートに記録し、全職員で共有している。 月2回協力医療機関の医師の訪問診療があるほか、週1回協力医療機関の看護師が健康チェックのために来訪している。 認知症疾患センターのある医療機関が協力医療機関となっているため、職員や家族等が相談し易く、医師から情報を得たり、治療方針や認知症高齢者への対応について助言を得たりしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師との契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談助言対応を行っている。看護師とは気軽に相談することが出来、医療連携も密に取れている。介護職員は利用者の少しの変化も見逃さず報告をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、家族とも情報交換しながら、なるべく早く退院ができるようにアプローチをしている。退院時のカンファレンスにはできるだけ同席し、今後の生活の指導を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に伴う意志確認書を作成し、事業所が対応できる最大のケアについて説明を行い、医療機関と連携をとり職員全員に介護方針を統一徹底している。	重度化した場合や看取り介護に関する事業所の対応指針を作成し、契約時に事業所でできることとできないことを利用者や家族等に説明して同意を得ている。 事業所はこれまでに看取りの経験はないが、医療機関と連携を図りながら体制を整え、利用者の重度化や看取り介護の実施についてのマニュアルを作成し、職員研修を実施して方針を共有しながら重度化や終末期の支援に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て実施した救急手当や蘇生術の研修をもとに、年1回の応急手当の施設内研修を実施している。管理者が救急救命対策協議会の応急手当普及員養成講習を受講し、職員に応急手当の方法を指導している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、夜間・日中の想定のもとに利用者や地域の方々とともに避難訓練を行っている。また非常用食料備品（水、食品）と毛布を備えている。地域住民の災害避難説明会に参加。地域の協力体制については運営推進会議で協力をお願いしている。	避難時の対応マニュアルを作成するとともに、消防署立会いを含めた総合避難訓練を年2回実施しているが、訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 避難訓練実施後は課題や反省点を話し合って記録に残し、改善に努めている。 災害の発生に備え食糧や飲料水、毛布を備蓄している。 職員が地区の災害避難説明会に参加して情報を得ており、災害時には集落の避難所に避難することになっている。 大きな地震が起きたり、雨量が多い場合には市から注意勧告の電話が入ることになっている。	運営推進会議に諮ったりして避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう取り組むことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会やミーティングで日々のかかわりを点検している。職員の意識向上を図るとともに一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないことを全員に徹底している。	職員はDVDを利用して接遇の勉強会をしたり、ミーティングで利用者との係わり方を見直しながら、一人ひとりの人格を尊重した対応に努めており、特に排泄や入浴支援では誇りやプライバシーを損ねないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管し、取り扱いには十分注意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けず、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている（レクリエーションや散歩への参加、入浴や着替えなど）。基本的には一日の流れは持っているが、入居者が言葉では十分に意思表示ができない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら本人の希望や好みを把握している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重し、個別性のある支援を行っている（作業療法、レクリエーション、散歩やドライブなど）。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えはできるだけ本人の意志で決めてもらっている。自己決定ができない人にはそれぞれの生活習慣に合わせて本人の気持ちに添った支援をしている。月1回の理容室も本人の希望に応じて実施する。また本人の馴染みの美容院とも本人の希望に合わせて連携をとっている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テレビを消して、利用者と職員が同じテーブルで会話をしながら楽しみながら食事をしている。下膳や食器拭き、おしぼりたたみ等利用者と行っている。また入居者と一緒に畑で採ってきた野菜等を食事の一品として追加することもある。	献立は利用者の好物や苦手な食べ物を把握して職員が作成し、毎月2日は赤飯の日とするほか、季節の行事食を取り入れたり、職員と利用者が自家菜園で収穫した季節の野菜を食材に取り入れたりしている。 かかし祭りやドライブ時に外食をするなど、食事に変化に富んだ楽しみなものとなるよう工夫している。 職員は利用者と一緒に会話をしながら和やかな雰囲気です食事ができるように支援するとともに、利用者は能力に応じて野菜の下ごしらえやおしぼりたたみ、下膳、食器拭きなどの役割を担っている。 食器は管理者がこだわりの陶器を使用して、心豊かな食卓となるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。特に水分を拒否し水分量が不足しがちな人にはジュース、ゼリー等工夫をして飲ませている。カロリーの不足な人はエンシュア等を飲んでいる。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を研修会等により全ての職員が理解している。食前の健口体操や毎食後の歯磨きの声掛けを行い、一人ひとりの力に応じた手伝いをしている。就寝前の義歯の洗浄も行っている。2回/日と外出から戻った時にはイソジンによりうがいをしている。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の時間や習慣を把握し、尿取りパットの使用や時間毎の声掛けをして、出来る限りトイレで排泄できるように支援している。夜間もなるべくトイレで排泄できるよう、オムツを使用して入所した方も排泄パターンを把握して、リハビリパンツを使用し、トイレ誘導をしている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らいながら声かけやトイレ誘導をし、夜間でもできるだけトイレで排泄ができるよう支援している。 事業所内でおむつ支援に関する講習会を実施し、一人ひとりに適したおむつやパッドを使用することで利用者がより快適に過ごせるよう支援するとともに、おむつに掛かる費用の軽減を図っている。 入居前におむつを使用していた利用者が、職員の適切な支援によりリハビリパンツを使用し、トイレで排泄できるように改善している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。食材のエネルギーや水分補給や運動をしたり、職員が腹部マッサージをすることにより薬に頼らず一人ひとりに応じた自然排便ができるように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴を実施しています。足がむくむ方には足浴を行っています。着替えを自分で用意して入浴したい日に入浴をしています。拒む人に対しては言葉掛けなど工夫をして入浴支援をしている。一人ひとりの意向に沿ってくつろいだ気分で入浴できるように支援している。	利用者一人ひとりの体調や希望にそって、毎日入浴ができるよう支援している。 自発的に着替えを自分で用意して入浴している利用者もいるが、入浴を拒む利用者にはタイミングを見計らいながら言葉かけを工夫し、無理の無いように促している。 柚子湯や菖蒲湯、林檎湯などで、利用者が季節感を味わいながら寛いだ気分で入浴ができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中は活動を促し、生活リズムを整えている。夕方からは穏やかで、ゆったりとした時間を過ごす様に工夫をしている。睡眠薬が処方されている方も薬を服用せずに安心して気持ちよく眠れるように支援している。寝付けない時には飲み物を飲みながらおしゃべりをしたりして眠れるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握できるように、服薬ファイルを作成。服薬は本人に薬を手渡し、きちんと服用できているか確認をしている。本人の状態の経過や変化等も日誌に記載し、日常生活に特に変化がある時には医師に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケやパズルや草引き、洗濯物たたみ、茶碗拭き等生活歴や好みによって一人ひとりに合った楽しみや役割りを見つけている。草引き、折り紙やちぎり絵等得意分野でそれぞれの力を発揮してもらえるようお願い出来るような事は仕事を頼んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には利用者の体調に注意しながら“和み水府のベランダ”で外気浴を楽しんだり、散歩をしている。歩行困難な方も車椅子を利用して季節感を味わうため戸外に出掛けている。季節ごとのイベントに参加したり、気分転換にドライブに行ったりしている。本人が気持ちよく生き生きと過ごせるように家族と共に墓参りや自宅への外泊、家族との会食など外出の機会をたくさん設けている。	外出の計画を立て、ボランティアの協力を得ながら同一法人の他事業所と合同の花見会をしたり、季節毎の花見や紅葉狩り、ぶどう狩り、地域の祭りなどに出かけられるよう支援している。 天気の良い日にはベランダでお茶を楽しみながら外気浴をしたり、利用者の希望や体調に配慮しながら、車いすの利用者も一緒に散歩や買い物に出かけたりしている。 利用者は家族等の協力を得ながら馴染みの美容院に出かけたり、墓参りや外食に出かけたりしているほか、自宅に宿泊したりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持できることで安心したり、買物をする中で楽しめたりする人がいるので、家族の協力を得て、少額のお金を持っている人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように個別に支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方の作品や毎月入居者様と共に作成した作品や飾りつけがある。室内に季節の花や額などを飾って家庭的な雰囲気を作っている。七草がゆや十五夜、菖蒲湯など生活感、季節感のあるものを採り入れ、暮らしの場を作っている。廊下の手すりの位置を低めに設置し使用しやすいようにしている。	共用空間は天井が高く十分な採光を取り入れるとともに、温度管理をして居心地よく過ごせるよう工夫している。 見晴らしの良い丘の斜面にある事業所なので、窓外に広がる四季折々の景色が利用者に安らぎを与えている。 玄関や居間、廊下に観葉植物や季節の花を飾るとともに、壁には利用者と職員と一緒に制作した作品や行事の写真、額絵などを飾っているほか、十五夜のすすきや月見饅頭など、季節毎の飾り付けをして、利用者が季節を感じながら穏やかに過ごせるよう配慮している。 廊下の手摺は利用者に合わせて低めに設置するとともに、ベランダや中庭を設け、天気の良い日に外気浴を楽しめる場として活用している。 浴室から見える場所に坪庭を作り、坪庭を眺めて楽しみながら入浴ができるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に椅子やテーブルを置き、一人で過ごしたり、家族知人との団欒や仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族の方と相談をし、利用者様の好みや馴染みの物（写真や使い慣れた物）を用意し、本人が居心地の良い場所としている。家族と本人には部屋は自由に使用して下さる様に伝えている。	居室にはエアコンや洗面台、ベッド、タンスが備え付けられている。 利用者は居室にテレビやラジオ、寝具類などの使い慣れた物品を持ち込んでいるほか、カレンダーや家族等の写真、人形、ぬいぐるみ、趣味の小物、愛用品、思い出の物品、手作りの作品、鉢植の植物などを置いて、思い思いに居心地のよい部屋づくりをしている。 お洒落な利用者が洋服掛けに沢山の衣類を掛けて毎日の着替えを楽しんだり、本好きの利用者が本棚を置いたりしているほか、日記を書いたりして過ごしている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの“わかる力”を見極めて、不安や混乱の無いように環境面で工夫している。利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境を整え、安全確保と自立への配慮をしている。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム和み水府

作成日 平成26年4月8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	運営推進会議に諮ったりして避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう取り組むことを期待する。	近隣住民の参加をお願いする。	地区の消防団に依頼をし、避難訓練に参加をしていただくとともに、施設の平面図を良く知っていただく。	平成26年3月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。